

ページ	原文論点	解題	スミス・諸国民の富
278 ケネー	<p>・固定資本と流動資本とを原前貸しと年前貸しに区別する。借地農業者の資本を唯一生産的資本とみなす。回転期間一年(流動資本)と他は一年以上に(10年)に区別される(固定資本)。</p> <p>・貨幣を原前貸しより年前貸しと考えることは、ケネーは思いつかない。</p> <p>・生産資本として両者の区別は、完成生産物の価値の補填の差異(年々か長期間か)にあらわれる。</p>	<p>・第4章資本の三つの循環、三つの姿態転換、貨幣資本・生産資本・商品資本と固定資本・流動資本との関係を考える。固定資本と流動資本は生産資本の違い、生産過程での価値移転・補填の違い、として現れる。</p>	(2)岩波文庫 ページ
280	<p>・スミスの進歩は、農業者のみでなく、生産資本の形態に一般化される。農業生産物の毎年の回転か、多年にわたる回転との区別の代わりに、スミスにとって、前貸しは流動資本に、原前貸しは固定資本に転化される。</p>	<p>★この区別は、投資された資本(貨幣)が、生産資本の諸要素に転形された時に初めて生じる。</p>	P 236-237 利潤をもたらす流動資本と固定資本
280 -281	<p>・スミスは「資本がその使用者に収入または利潤をもたらすように使用される二つの異なる仕方がある。第一に、資本は財貨を生産・製造し、それを販売しさらに利潤を得て売ることによって使用される。」-スミスは資本の農業・製造業・商業への充用を言う。スミスは資本の種々の投下部門のことを、しかも商業におけるように、資本が直接的生産過程に合体されていることなく、生産資本として機能しない部面も含めて言っている。</p> <p>・スミスは、重農学派が生産資本の諸区別と、それらの回転に及ぼす影響を説明する基礎を放棄している。彼はただちに商人資本を例に挙げている。</p> <p>・スミスは続けて「この仕方で使用される資本は、その使用者の所有に留まるのかまたは同じ形状で存続する間は、その使用者に収入または利潤をもたらさない」と。</p>	<p>★スミスは、資本の投下部面、利潤の発生を、農業・製造業のみならず、生産資本でない流通部面の商業面も含めて言う。</p>	
282	<p>・スミスは、「商人の機能は、彼がそれを売って貨幣に換えるまでは、彼に収入または利潤をもたらさず、貨幣もそれが再び商品に交換されるまでは、彼に何ももたらさない」「彼の資本は、たえず一の形態(w)で彼から離れて他の形態(G)で彼のもとに帰る。」「このような流通または継起的諸交換によってのみ、彼の資本に何らかの利潤をもたらせず。」このような資本を流動資本とよぶ。</p>	<p>★スミスとマルクスの根本的な違いは、資本の循環の規定の違いにある。マルクスは 資本の循環を、第一形態G-W、第二形態W-P (Pm+A)、第三形態、W' -G' の三つの資本循環として規定するが、スミスにあっては、第二形態の生産資本Pを区別することができず、流通部面に含めてしまう。流通部面の交換W-Gによって、固定資本と流動資本から利潤が生み出されると考える。</p>	P 241 P 236
283	<p>・スミスが、流動資本と規定しているのは、私(マルクス)が流通資本とよび、流過程に属し、交換による形態変換(素材転換と持ち手転換)に属する形態にある資本であり、したがって生産過程に属する資本形態、すなわち生産資本の形態に対立する商品資本と貨幣資本である。</p> <p>・スミスは、一方における生産資本と流通部門にある資本(商品資本および貨幣資本)との、他方における固定資本と流動資本との根本的な混同をしている。</p> <p>・スミスは、資本価値の内部での、つぎつぎに採る諸形態を通して行われる循環において、資本価値が生産資本の形態にある間に発生する形態上の区別と混同している。</p>	<p>★スミスの、固定資本と流動資本との根本的な混同 スミスは、交換による形態変換-第一形態G-W (P m+A)とPの第二形態W-Pを区別できず、貨幣-生産材料・要素(質量)としての生産資本を、P(生産)に対立する流過程にある商品資本・貨幣資本と混同する。</p> <p>★生産過程 Pにおける生産資本(P m+A)と流過程にあるW・G商品・貨幣資本との混同</p> <p>・G-W、W-P (P m+A)、W-W'、W' -G' の諸形態の循環の中の、生産資本の形態上の区別(W→W+w)と商品・貨幣資本の転換との混同。</p>	P 244 流動資本と商品資本、貨幣との混同

284 ・スミスが流動資本と言うのは、流通資本、流過程に属する諸形態における資本価値(商品資本と貨幣資本)に他ならない。彼は決して生産過程に属しない流通部にのみあり、流通資本のみからなる資本種類、すなわち商人資本を例にあげる。「商人の資本は全く流動資本である」と。  
 しかし流動資本と固定資本との区別は、生産資本そのものの内部における本質的区別から生じる。  
 ・スミスは固定資本について、「第二にそれ(資本)は、土地の改良に、有用な機械と仕事用具に、または持ち主を換えること、あるいはそれからさらに流通することなしに所得または利潤をもたらすような類似の諸物に使用される。かような資本はきわめて適切に固定資本と呼ばれる。

285 ・仕事の異なるにしたがって、それらで使用される固定資本と流動資本の比率も種々に異なる。・・資本のはるかに大きい部分は、彼らの職人の賃金かまたは彼らの材料の価格として流通し、そして製品の価格によって、利潤を伴って返済されるべきものである。  
 ★固定資本と流動資本との混乱  
 ・混乱は次の点にあらわれる。例えば、機械製造業者にとっては、機械は商品資本として流通する生産物であり、従ってスミスの言葉では「手放され、持ち主を換えさらに流通する」生産物である。従って機械は、彼自身の規定では、固定資本ではなく流動資本であろう。  
 ・このような混乱もスミスが生産資本の種々の要素の流通の仕方の差異から生ずる固定資本と流動資本との区別を、同じ資本が生産過程の内部では生産資本として機能し、これに反して流通部面の内部では流通資本すなわち商品資本または貨幣資本として機能するかぎりにおいて通過する形態上の区別と混同していることから生ずる。  
 ・スミスにおいては、同じ物が資本の生活過程において占める位置の如何によって、あるいは固定資本として(労働手段、生産資本の諸要素として)機能し、あるいは「流動する資本」、商品資本として(生産部面から流通部面に突き出される生産物として)機能することができる。

286 ・スミスは分類基礎を突然変更し、全研究の端緒と矛盾する。「資本がその使用者に所得または利潤をもたらすように使用される二つの異なる方法がある。即ち流動資本としてか、または固定資本としてかである。」  
 ・それらの仕方とは、相互に独立した相異なる諸資本の相異なる充用の仕方、例えば諸資本が工業と農業とのいずれに充用されうるかという仕方であつた。  
 ・しかるに今度は「仕事の異なるにしたがってそれらで使用される固定資本と流動資本との大きさの比率も、種々に異なるものが必要とされる」。という。いまや、固定資本と流動資本とは、もはや異なる独立の資本投下はなく、同じ生産資本の異なる諸

★スミスの流動資本＝年前貸し資本・毎年の回転・補填、交換による持ち手変、換生産資本に対立する商品資本・貨幣資本GとW

「 固定資本＝原前貸し資本・機械設備・土地。持ち主を換えることなく利潤をもたらす。(誤り)

★スミスー流動資本、固定資本ともに利潤をもたらす。

P241ー固定資本は流通することなしに、収入または利潤をもたらす。a、有用な機械・用具、b、収入を調達する有利な建築物。c、土地の改良、d、有用な能力からなる固定資本。

P243ー流動資本は、a、貨幣、販売から引き出せる食料品、衣服・家具および建築材料、d、商人の手元にある完成品、流動資本。

★スミスにとっては、機械製造業者にとつて、機械は商品としての生産物・持ち主を換える生産物でもありうる。彼にとっては機械は流動資本でもあり固定資本でもありうる。

・生産過程内での固定資本と流動資本の機能上の区別を、流通部面における固定資本と流動資本の形態上の区別とを混同している。

P 241

P236-237

- 部分であり、等価部面の異なるのに従って、この資本の総価値中に占める割合を異にする諸部分である。
- ・それは生産資本そのものの適当な分割から生じる。従って生産資本だけに当てはまる区別である。しかしこれと矛盾して、商業資本が単なる流動資本として、固定資本に対置される。スミスは、「商人の資本は全く流動資本である」と言っている。
- 287 スミスの挙げている例では、彼は仕事用具を固定資本として規定し、労働賃金並びに補助材料含めての原料に支出された資本部分を(製品の価格によって利得を伴って帰ってくるものとして)流動資本として規定する。
- ・機械および「仕事用具、類似の諸物は・・持ち手を換えることなく、さらに流動することなしに、所得または利潤をもたらす。それゆえかような資本は極めて適切に固定資本と呼ばれる。」
- \* 鉱山業の例
- 289 ・スミスが固定資本に対立する流動資本について「かような仕方で使用される資本は、それがその使用者の所有に留まるかまたは同じ態様で存続する間は、使用者に所得または利潤をもたらさない」と言う時、彼は種々の規定を混同している。彼は生産物が、商品資本が流通部面で通過する、諸商品の持ち手を転換する、商品の単に形式的な変態を、生産過程の種々の要素が生産過程にあるあいだに通過する物的変態と同列に置いている。彼はここでは商品から貨幣への転化および貨幣から商品への転化を、買いと売りとを、そのまま生産要素から生産物への転化と混同している。
- ・彼は生産物が、商品資本が流通部面で通過する、諸商品の持ち手転換を媒介する、商品の単に形式的な変換を生産資本の種々の要素が生産過程にある間に通過する物的変態と同列に置いている。
- 291 ・資本が固定資本であるのは、それが労働手段に固定されているからではなく、労働手段に支出されたその価値の一部分が、他の部分は生産物の価値構成部分として流通しているにも関わらず、依然として労働手段に固定されているからなのである。
- ・「資本が将来の利潤を得るために使用されるとすれば、それは使用者のもとに留まることによってか、または彼から去ることによって、この利潤を得なければならない。前の場合にはそれは固定資本であり、後の場合には流動資本である。」
  - ・生産物の価格においては、材料の価格とともに、労働力の価格が補填されているが、労働用具から摩損によって生産物に移された価値部分も同様に補填されている。この補填からは決して利潤は湧いてこない。生産物の生産のために前貸しされた価値が生産物の販売によって補填されるのが、全部的であるか、一次的であるか漸次的であるかは、補填の仕方と時間とを変え得るに過ぎない。いずれの場合にも価値補填が、剰余価値を作り出すことに転化しうるものではない。

P237

P241

P236

★固定資本と流動資本が、使用者の所有のままにあるか、使用者の持ち手変換によるのかで利潤がもたらされるかかどうかを区別する(流通)。生産過程における生産資本の固定資本と流動資本との区別・物的変換を、流通過程の形式的変化と同列に置いている。

★流通過程での形態返還は、商品の持ち手返還であるG-W、W-Gである。これに対し、生産資本が生産過程で通過する「姿態転換」は生産諸要素を完成生産物に転形するのに必要な「労働過程に属する姿態転換」である。一労働過程の流通過程との同一視

★労働手段の価値一その一部が生産物に移転、他の部分労働手段に固定一労働手段に固定された生産資本は、固定資本である。一全部が生産物に移転する場合、労働手段は流動資本である。(原料等)

## 参考 (Googleより引用)

アダム・スミスは、資本を固定資本 (Fixed Capital) と流動資本 (Circulating Capital) に分類し、土地・建物・機械などの「固定資本」は生産の効率化・生産力増大に寄与し、原材料・労働力などの「流動資本」は生産過程で消費され、商品に転化する資本と考え、その区別は重農学派やケネーの思想にも影響を与えつつ、『国富論』で分析しましたが、後のマルクスはスミスのこの分類を「不変資本」「可変資本」という独自の概念で批判・発展させました。

### スミス 固定資本 流動資本 AI による概要

アダム・スミスにおける固定資本 (Fixed Capital) は、機械や建物のように生産過程で繰り返し使用され、すぐに消費されない資本 (固定資本財) を指し、流動資本 (Circulating Capital) は、原材料や賃金のように生産過程で一度で消費され、新たな製品となって流動する資本 (流動資本財) を指します。スミスは、これらを区分することで社会全体の再生産構造、特に「富の増大」の源泉を労働と資本の結合、そして技術的進歩 (設備投資) に求めたのです。

### 固定資本と流動資本の定義と具体例

#### 固定資本 (Fixed Capital):

意味: 一度投資されると、長い間使われ、その価値は少しずつ製品に転嫁される資本。

具体例: 工場、機械、道具、土地など。

#### 流動資本 (Circulating Capital):

意味: 生産過程で原材料や労働力として消費され、製品となって市場に流れていく資本。

具体例: 原材料、賃金、食料品 (労働者の消費分) など。

### スミスの思想における役割

再生産過程の分析: スミスは、農業や工業における生産の物質的連関 (何が何に使われ、どう変化するか) を分析する中で、この区別を用いました。

「富の増大」の源泉: これらの資本が技術的に結合し、生産性を高めることで、社会全体の消費財 (富) が増大すると考えました。特に、機械などの固定資本への投資 (資本蓄積) が重要視されました。

重商主義批判: 貴金属の蓄積こそが国の富だとする重商主義を批判し、労働者が生産する生活必需品や便益品の蓄積こそが真の豊かさ (富) であると主張しました。

### 後世への影響 (マルクスの批判)

カール・マルクスは、スミスやリカードの「固定資本」「流動資本」という区分を批判的に継承しつつ、自らの「不変資本」「可変資本」という概念を創り出し、資本主義の分析を深めました。

要するに、スミスはこれらを「生産手段と労働者の生活」という視点から捉え、その流動と固定のあり方が社会の生産力と富を決定すると考えたのです。